

# 令和6年度 徳島市上八万中学校 総括評価表

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
確かな学力の育成	主体的に粘り強く学習に取り組む生徒の育成	<b>評価指数</b>	<b>評価指数の達成度</b>	<b>総合評定</b> (評定) <b>B</b> (所見) 生徒の主体性を生かした「深い学び」の実現に向け、ペア・グループ活動や自分の言葉で表現する活動に力を入れたため自分の考えを伝えることにおいては生徒のアンケートの指標もアップしていた。 GIGAスクール端末については、ICT支援員のサポートを受けながら取り組んだが端末接続の不具合が目立った。 職場体験を実施した他、外部講師を招いての講演等も多数開催し、キャリア教育の充実にも努めた。	<b>〈自己評価結果について〉</b> <b>A適切である 40.0%</b> <b>B概ね適切である 60.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b> いろいろな行事を通じて心や学力が育っているように思う。 個人端末の通信不備はGIGAスクール構想が始まってからずっと続いていると聞かされたが、未だに改善されないのはなぜなのか。タブレットを快適な環境で利用できればと思う。 職場体験は是非継続してほしい。 <b>〈今後の改善策について〉</b> <b>A適切である 60.0%</b> <b>B概ね適切である 40.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b> 学力はもとより、将来をえがく力を身に付けるためにはいろいろな経験、体験をすることが望ましい。 キャリア教育だけでなくボランティア活動なども参加しやすい体制を取ってくれればと思う。 ネットの接続については、地域や地形的なことも考える必要があるのかと感じた。	<b>〈課題〉</b> ①教職員のウェルビーイングを尊重しつつ、授業改善や学力アップを推進するかが課題である。 ②個人端末やその通信環境の不備や不具合により活用が十分にできなかった。また、家庭学習において個人端末をどのように活用させていくかも課題である。 ③職場体験や外部講師を招いての講演等からの学びをいかに社会や人生と結びつけていくかが課題であり、出前授業の精選も今後の課題である。 <b>〈改善方策〉</b> ①授業改善や学力向上を視野にいれた校内研修のあり方について検討を行う。効率的で実りの多い研修の精選を行う。 ②関係機関にネット環境の状況を幾度となくみていただいた結果、GIGAスクール構想の実現が難しい状況であることがわかった。再来年度からの新端末についても接続がよくない場合の対処方法も市教委と検討していく。 ③将来をえがく力を身に付けさせるためにキャリア教育を軸に据えたカリキュラムマネジメントを行い3年間を見通した取り組みを行う。
		<b>活動計画</b>	<b>活動計画の実施状況</b>			
		○「今日のめあて」を必ず板書し、本時の目標を確認している。 ○授業の終わりに本時の振り返りの時間をとっている。 ○深い理解や考えの形成・再構築を促すペア・グループ活動等を行っている。 ○ICT活用、板書、ノート指導、発問の仕方等に工夫と改善を加えている。 ○校内研修を実施し、授業力向上に努めている。 ○指導と評価の一体化を図り、学習評価を適切に行っている。 ----- ○GIGAスクール構想の趣旨を全教職員が共通理解している。 ○個人端末を活用した授業が展開されている。 ○個人端末を家庭での学習に活用させている。 ----- ○全体計画に基づき、組織的・計画的にキャリア教育に取り組んでいる。 ○地域・保護者と協働し、有意義な職場体験を実施している。 ○将来の夢や希望の実現のための進路相談を丁寧に行っている。 ○外部講師等を招いて職業講話等を実施している。 ○今の学びを社会や人生と結びつけ、学ぶことの意味を考えさせている。	<b>A 37.5%</b> <b>B 62.5%</b> <b>C 0.0%</b> ----- <b>A 5.9%</b> <b>B 65.1%</b> <b>C 33.2%</b> ----- <b>A 53.0%</b> <b>B 47.0%</b> <b>C 0.0%</b>			
豊かな心の育成	豊かな心の育成と安全な環境づくりの推進（心身の安全）	<b>評価指数</b>	<b>評価指数の達成度</b>	<b>総合評定</b> (評定) <b>B</b> (所見) 全ての教育活動において人権尊重の精神の涵養をめざし、日常の中で人権が大切にできる集団づくりに取り組めた。オープンスクールの発表も成果を上げた。 安全で衛生的な教育環境の構築に向けて生徒と教職員が一体となって美化・清掃に取り組むことができた。 全体的に自分からの挨拶に課題はあるが、あいさつ運動や清掃活動ができており、場に応じた言葉遣いもできている。	<b>〈自己評価結果について〉</b> <b>A適切である 60.0%</b> <b>B概ね適切である 40.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b> 人権学習について学んだことが、普段の生活にも生かされているかどうかということを見極める必要があるのではないかと。 オープンスクールの発表をみても、子どもたちのなかに人権を大切にしていこうという心があると思った。 <b>〈今後の改善策について〉</b> <b>A適切である 80.0%</b> <b>B概ね適切である 20.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b> 生徒自らが考え行動する習慣を身につけることは、とても重要だと思う。具体的に示せたらもっとよくなるのではないだろうか。 小学校からの繋がりを持ち、交流するなどして、人権の心を育ててほしい。	<b>〈課題〉</b> ①昨年度は市村人権の会場校として流れを引き継ぎ、今年度の人権オープンスクールを行った。来年度もこのモチベーションを下げないことが課題である ②全校一斉除草作業を実施し、成果を上げることができたので、これをさらに有意義な活動にすることが課題である。 ③挨拶、清掃など生徒会が作成した6箇条を軸に生徒自らが自己の品位の向上に努められるようにすることが課題である。 <b>〈改善方策〉</b> ①実施時期や時間、実施方法などを検討し、やりがいのある行事とする。また、保護者や地域の方の力を借りて、教育環境の整備を行う。 ②人権教育を進めるにあたり、問題解決的な学習や豊かな体験活動を取り入れるなど多様な工夫を行う。 ③生徒会活動の活性化を図るとともに、生徒自らが考え行動する習慣を全ての教育活動で身につけさせていく。
		<b>活動計画</b>	<b>活動計画の実施状況</b>			
		○全ての教育活動において人権尊重の精神の涵養をめざしている。 ○日常的に人権の大切さが実感できる集団づくりに取り組んでいる。 ○道徳教育において体験的な活動を積極的に取り入れている。 ○特別活動において自己有用感を高めるよう努めている。 ○いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止に取り組んでいる。 ----- ○自分から進んで大きな声であいさつができるように指導している。 ○場に応じた適切な敬語が使用できるように指導している。 ○職員室・校長室等への入退室の仕方について指導している。 ----- ○清掃の時間、すべての教員が指導にあたっている。 ○教室や廊下などの掲示物が美しく掲示されている。 ○教室や廊下などの備品等が整理されている。 ○地域の清掃活動に参加するなどして、地域の環境美化に努めている。	<b>A 58.8%</b> <b>B 41.8%</b> <b>C 0.0%</b> ----- <b>A 47.1%</b> <b>B 52.9%</b> <b>C 0.0%</b> ----- <b>A 47.1%</b> <b>B 52.9%</b> <b>C 0.0%</b>			
健やかな体の育成	食育・安全・体力等心身の健康の増進	<b>評価指数</b>	<b>評価指数の達成度</b>	<b>総合評定</b> (評定) <b>B</b> (所見) 避難訓練・交通安全教室は例年どおり実施できた。 養護教諭の生活アンケートにより生徒の心身の健康を保持しようと分析が進められた。 家庭科の授業や食育パワーアップ作戦、日々の給食指導において食に対する意識が高まっている。 体育の授業は好きな生徒は多いが、生徒の運動量については二極化が進んでいる。	<b>〈自己評価結果について〉</b> <b>A適切である 60.0%</b> <b>B概ね適切である 40.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b> 食育の推進については生徒の体のことをよく考えてくれていると思った。 体育的活動をする生徒の数が限られているのは、部活動の選択肢が少ないのが問題だと思う。何かよい方策はないのだろうか。 <b>〈今後の改善策について〉</b> <b>A適切である 80.0%</b> <b>B概ね適切である 20.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b> 避難訓練については、ぜひアップデートしてほしい。 部活動への入部もふくめ、運動を増やしていける方策があればと思う。	<b>〈課題〉</b> ①様々な場合を考えた避難訓練の実施が課題である。 ②アンケート分析により、困ったとき相談がしにくいという生徒の課題が浮き彫りになった。 ③円滑な食育推進のために、授業や日々の給食で食育への意思をさらに高めていきたい。 ④体育の授業は欠席者も少ないが、体育的部活動をする生徒の数は限られている。 <b>〈改善方策〉</b> ①避難訓練の計画を検討する。 ②心身の健康を維持できるよう、養護教諭、SCとともに改善策を探るために、分析を行い、生徒会や専門委員会とも連携して主体的取り組みにつなげる。 ③食育については家庭科の授業の中で栄養教諭と養護教諭の知識と経験を生かしながら進める。 ④部活動への参加を推進するとともに、体育の授業への積極的参加や余暇時間の運動への参加を推進する。
		<b>活動計画</b>	<b>活動計画の実施状況</b>			
		○部活動や本人・保護者への啓発により運動習慣の推進をしている。 ○給食などを通して食育を意識した指導に努めている。 ○交通安全・防災への意識を高めるよう取り組んでいる。 ○PBSで自己肯定感を高め、生徒の心の健康の維持に取り組んでいる。	<b>A 35.3%</b> <b>B 64.7%</b> <b>C 0.0%</b>			

家庭・地域・関係機関との連携	開かれた学校づくり	<b>評価指数</b>	<b>評価指数の達成度</b> <b>A 70.6%</b> <b>B 23.5%</b> <b>C 5.9%</b>	<b>総合評定</b> (評定) <b>A</b> (所見) H Pの更新と各種たよりの発行は定期的に行った。オープンスクールの発表は地域の方にもご披露できたが、授業参観が実質1回となってしまった。教職員は体験活動の充実や地域行事への参加に取り組んでいる。	<b>〈自己評価結果について〉</b> <b>A適切である 80.0%</b> <b>B概ね適切である 20.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b>  小学校は月1回程度、参観日や行事があるので、子どもの様子もよく見えると思うが、保護者からするとギャップがあると思う。  <b>〈今後の改善策について〉</b> <b>A適切である 80.0%</b> <b>B概ね適切である 20.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b>  保護者や地域の人に足を運んでもらえるような、工夫が大切である。職場体験はすごく良いと思うが先生方の負担が心配である。もう少し、PTA活動を増やしてもよいのではと思う。PTA除草作業は続けてほしい。	<b>〈課題〉</b> ①HPの更新は継続してきたが、保護者や地域へ学校の様子がよくわかる用にお伝えするのが学校の課題である。 ②オープンスクールは、合唱作曲家のコンサートも含め、生徒発表も好評だったので、来年度へも引き継ぎたい。 ③地域行事や職場体験等も地域との連携ができたと思うが教職員のウェルビーイングとの調整が課題である。  <b>〈改善方策〉</b> ①授業参観日を増やすことにより、学校の様子をわかっていただく。引き続き、HPの更新は続けていく。 ②来年度も各学年の取り組みを含め地域と交流をしながら人権オープンスクールを開催したい。 ③引き続き地域行事へ教職員の参加をお願いしたいと考えているが、働き方改革との兼ね合いも視野に入れて検討してい		
		①HP・各種たより（保健だより・給食だより・人権だより）等を通して開かれた学校を目指している。 ②教職員は、体験活動の充実や地域行事への参加に取り組んでいる。					<b>活動計画</b> ①HPの更新・各種たより配付	<b>活動計画の実施状況</b> 全校体制で取り組めた。
		②オープンスクールの実施					③地域行事への参加	
教育力の向上と持続可能な学校づくり	教育の質の向上と働き方改革の推進	<b>評価指数</b>	<b>評価指数の達成度</b> <b>A 11.8%</b> <b>B 58.8%</b> <b>C 29.4%</b>	<b>総合評定</b> (評定) <b>B</b>  (所見) 啓発により教職員の意識改革がある程度進み、月平均時間外在校時間や年休取得日数については、昨年度より成果が上がった。(月平均時間外在校時間38時間24分、年休平均15日取得)	<b>〈自己評価結果について〉</b> <b>A適切である 40.0%</b> <b>B概ね適切である 60.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b>  先生方の意識改革が進んでいることはうれしく思う。ワークライフバランスやウェルビーイングということばに逃げることなく、働き方改革はしていかなければならないのではないか。  <b>〈今後の改善策について〉</b> <b>A適切である 60.0%</b> <b>B概ね適切である 40.0%</b> <b>C適切でない 0.0%</b>  生徒数も減る中、やりたいスポーツができるように、関係機関で話し合っていく必要があると思う。人との繋がりのためにも部活動の入部への推奨とともに、適切な運営を願いたい。	<b>〈課題〉</b> ①ワークライフバランスに対する考え方を全ての教職員で共有し、教職員のウェルビーイングを尊重することが大切である。 ②校内の業務改善だけでは、業務量を大きく削減することは難しいため、いかに負担感を減らすことができるかが課題である。 ③部活動の地域移行や活動時間について国・県・市の動向を注視し、本校においてもできることから検討に入る必要がある。  <b>〈改善方策〉</b> ①日頃から教職員同士がコミュニケーションを図り、校務の偏りについても検証した上で、円滑な人間関係の構築を図る。 ②学校行事や校務について働きがい改革の視点で見直しを行う。また、統合型校務支援システムやグループウェアの活用についての校内研修を実施する。 ③生徒、保護者、地域、教職員の状況を十分に考慮し、長期的な展望で計画的に部活動のあり方について議論する場を設ける。		
		○教職員が自身の勤務時間を把握し、自己管理を行っている。 ○教職員が費用対効果、時間対効果を考えた効率的な活動を進めている。 ○月平均時間外在校時間が45時間以内に抑えられている。 ○年次有給休暇が年間15日以上取得されている。					○統合型校務支援システム・グループウェアを適切に活用している。 ○会議の時間短縮が図られている。 ○行事の精選や統合が行われている。 ○校務の効率化等が図られている。	<b>活動計画の実施状況</b> 計画的に啓発が行えた。
		○平日に1日、土日に1日の休養日が設けられている。 ○平日で2時間程度、土日で3時間程度の活動時間が守られている。 ○定期テスト前などは、家庭学習の時間が十分確保されている。					<b>活動計画</b>	組織的な取組を行えた。
		① 教職員のウェルビーイングによる教育の質の向上		全職員共通理解の元行えた。				
		② 業務改善の推進						
		③ 部活動の適正化						

総合評価の基準 **A 目標を上回っている(方策を十分実践している)** **B 目標をほぼ達成している(方策をほぼ実践している)** **C 目標を下回っている(方策をあまり実践していない)**